２００７年度　活動報告書

１　学校名　　倉敷市立琴浦東小学校
　　担当教員　岡田英里　齋藤徹也
　　学　年　　５年生
　　人　数　　男子２７名　女子３９名

２　活動概要

４月　　…　昨年度の５年生の活動を振り返り,「できることからはじめよう」をテーマに今年度の活動の見通しを立てた。

５月～６月…　まず,身近なところからできることを始めてみようと決め,校内の清掃活動に取り組んだ。

　人のためになることに取り組むことはとても気持ちのいいものだ，ということを感じ取ることができた。また，もっと活動していきたい，ほかにできるところはないだろうかという意欲も増していった。

７月　　…　田代先生から,「もし世界が 100 人の村だったら」のお話を聞いた。この話を聞くことを通して，カンボジアの現状を知り，自分たちがどれほど幸せなのかを考えるようになった。そして，ものを大切にしようとする意識を高めることができた。さらには，HG の活動を知るにつれ，自分たちでもカンボジアの子どもたちのためにできることはないだろうかと考えるようになった。

９月　　…　カンボジアのことをもっと知ろうということで，カンボジアについての調べ学習を行った。テーマは，国土や人口，言語，歴史や文化などである。この調べ学習を通して，日本と比較しながら，共通している点，違っている点に気付くことができた。カンボジアには，世界に誇る文化があるということ，内戦という歴史がカンボジアの国力を弱体化させてしまったこと，カンボジアの人々がよりよいくらしをしていくためには，お金やものはもちろん，様々な人々の応援が必要であるということにも気付いていった。

１０月　　…　そこで，自分たちにできるカンボジアの人々を応援する活動について話し合った。活動グループは以下の通りとなった。

・募金・アルミ缶回収グループ
・タオル・石けん・歯ブラシ回収グループ
・文房具・ノートグループ
・千羽づるグループ
・ボールグループ

　自分たちだけでは，足りないところもあるので，全校児童や職員にも呼びかけることにした。自分たちの立てた目標に向けて，ポスターを作成したり，参加してくれた方々にお礼にしおりを作成したりなど，意欲的な活動が見られた。その活動のかいあって，多くのお金やものを集めることができた。

　また，ボールグループは，地域のスポーツ少年団に声をかけ，バレーボールの寄付もいただいた。学校だけでなく，地域にも活動の幅を広げることができたことは，大きな成果であった。

１１月　　…　自分たちの活動をもっと多くの方々に知ってもらおうと，総合的な学習の時間の発表の場でもある,「かがやきフェスタ」において，以下のような活動を行った。

　まず，全体の場では，カンボジアの歴史や現状について調べたことを発表した。そして,「地雷ではなく　花をください」の朗読発表をした。多くの方々に，自分たちが何を求めて活動しているの

かを伝えることができた。
　次に，バザーコーナーや千羽づるコーナーを設け，多くの方々に参加していただいた。募金も呼びかけた。そのおかげで，たくさんのお金と千羽づるが集まった。
　この活動によって，多くの成果を上げることができ,児童も大いに満足を得ることができた。

１２月　　…　集めたものをカンボジアに送る準備を進めていった。「集めたものを届けるのが自分たちの目標だったのか？」と問いかけると,「ものだけではない，自分たちのがんばってという気持ちも届けよう！」という児童からの答えが返ってきた。そこで，自分たちの思いをつづった手紙を添えて，カンボジアに送ることとなった。

２月～３月…HG から，自分たちが送ったものが届いたとの便りが届いた。児童にとっては，自分たち宛に日本語で返事が返ってきたことに，大きな感動と満足感を得ることができた。遠くはなれた日本とカンボジア，ものを通しての交流ではあったが，心と心が通じ合った瞬間であったと感じた。

○この活動を通して児童が学んだこと
　昨年度のつながりから，児童はカンボジアについて学習をしていこうという意識をもっていた。しかし当初は，カンボジアは貧しい国であり，募金活動が必要なのだという程度の意識しかなく，カンボジアの実態がどうなっているのかを知る児童は少なかった。それでは学習の意味がないと考え，まず自分たちの足下から見つめ直そうということで，校内清掃に取り組んだ。この活動を通して，人のためになることに取り組むことはとても気持ちのいいものだ，ということを感じ取ることができ，もっと活動していきたい，ほかにできるところはないだろうかという意欲も増していったのであった。
　その後，HG 事務局長の田代先生にお越しいただき，カンボジアの実情やカンボジアのすばらしさ，子供たちの純粋さを教えていただいた。その中で，児童にとって印象的だったことは，カンボジアの子供たちはとても明るく，いつも笑顔が絶えないということであった。日頃物を大切にしていなかったり，心から笑えていなかったりする自分を振り返ることができた。さらには，カンボジアの子供たちを身近に感じられるようになり，友達になりたいという意識も芽生えてきた。
　その後の活動では，カンボジアの子どもたちのために，自分たちができることに精いっぱい取り組んでいこうとする姿が大いに見られるようになった。これは，以前に行った校内清掃を通して，人の役に立つという感動体験が生かされているのだと感じた。
　今の子どもたちにとって，感動する体験，人と人との温かみのある交流が大いに必要であると感じている。今年度の活動を通して，児童には，ものを大切にしていこう，人を思いやって生活しようとする姿が見られるようになってきた。物の豊かさではなく，みんなで支え合い，心のあたたかさを感じながら生活することが必要なのだということに気付くことができたのではないかを思う。
　今年度このような成果を上げることができたのも，HG の方々の協力があってのものでした。この場を借りて感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。